

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 自ら学び成長し、気持ちの良いあいさつができ、思いやりがある子ども	堺市立大泉小学校 校長 忠見 亜由美
--	------------------------------

令和7年度 重点目標 自分の言葉で自分の考えを伝えられる子の育成	1. 「自ら学ぶ子」「つくりだす子」「なかよくする子」 ○ICTを活用しての一斉指導・個別最適な学び・協働的な学びをとおして自ら学びを進められる子の育成 ○前期・中期・後期を意識した子どもの育成 ○「本物との出会い」をとおしたキャリア教育の推進 ○グリーンスクールプログラムをとおした規範意識の向上 ○カワセミはがきを活用した自尊感情の向上 ○デジタル教材やNSを活用し、英語を話そうとする態度の育成 2. 「情熱」「指導力」「教育公務員としての自覚」 ○大泉学園授業スタンダードの活用 ○教科の専門性を活かし、児童生徒が主体的に学べる授業の推進 ○教科の特性を活かし、9年間を見据えた指導 ○妥当性・信頼性の高い学習評価・正確な進路対応 ○コンプライアンスの遵守 ○定時退勤日の遵守・時間外在校等時間の削減・ICTの活用による働き方改革 3. 「安心・安全」「チーム力」「未来をつくる」 ○人権尊重の精神に立った教育活動 ○個に応じた特別支援教育の充実 ○「どの子にもわかる授業づくり」による居場所づくりや仲間づくり ○いじめの未然防止・早期発見・早期解決 ○危機管理体制の徹底 ○児童生徒の健康管理の推進 ○中学校給食モデル校としての実践 ○学校・家庭・地域・関係機関とよりよい関係づくり
---	--

「確かな学び」の現状 昨年度は、RSTの結果をもとに協働的・対話的に学習を進めることで、自らの考えを伝えあいながら思考力を高められるように取り組んだ。また、「学びのコンパス」と「大泉授業スタンダード」の共通性をいかして、児童が学習をより自分事としてとらえるよう、児童にゆだねられる場面を授業で設定した。今年度も、昨年度に引き続き、「思考力」に焦点をあて、教科担任制の専門性をいかしながら、教科独自の「見方・考え方」を働かせられるよう働きかけたい。また、「学びのコンパス」の趣旨に則り、児童の思いを大切に、過年度の学び方などの実態を把握し、それぞれの発達段階に応じた委ね方をができるよう努めたい。	「豊かな心・健やかな体」の現状 昨年度も、連合運動会が実施され、他校との交流を通して体力の向上の良さを感じることができた。体育の授業でも継続して学校水泳やなわとびの時間を設けるなど、体力の向上に取り組んだ。今年度は、昨年度に加えてかけ足・大縄などを取り入れ、学校全体で体力の向上をめざしたい。また昨年度、「カワセミはがき」による「いいとこ見つけ」や「グリーンスクール」取り組みを通して、児童の自尊感情を高めていった。その結果、学校評価アンケートの「グリーンスクール」項目において、全学年87%以上の肯定的回答が得られた。今年度も、「カワセミはがき」などの取り組みを行い、互いに認め合える集団づくりに取り組んでいきたい。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 ●重点とする取組、★中学校区での取組	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認(◎、○、△) (11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価(◎、○、△)	学校関係者評価(◎、○、△)
確かな学び	思考力	理論的思考力の育成	●★「思考力」に焦点化して、本校独自の「大泉授業スタンダード」に基づき、授業展開など指導法のさらなる工夫により、考える力のいっそうの育成をめざす。	「思考力」項目で肯定的回答85%以上	学校評価アンケート(教員用)	1月	○ 校内研修や研究授業を通して「大泉授業スタンダード」に基づいた授業を進めることができている。	◎	・教職員アンケートの「子どもは、自分で考えたことを『思考力ファイブ』を意識して表現しようとしている。」の項目では、肯定的回答が81%だった。児童アンケートの1～4年生で「授業では自分の考えを話したり、表現しようとしている。」の項目では肯定的回答が92%、5～6年生で「授業では、タブレットや思考力ファイブなどを使って自分の考えを表現しようとしている。」の項目では肯定的回答が97%であった。「大泉授業スタンダード」や「思考力」に焦点を当てた授業研修の成果が出ていると考える。
		基礎・基本の徹底と活用、家庭学習の定着	★大泉漢字計算検定、朝の学習、家庭での自学ノートの取組を通して、漢字力や計算力など、基礎学力の定着を図る。	大泉漢字計算検定で平均点85点以上	大泉漢字計算検定	各学期	○ 大泉漢字計算検定でほとんどの学年で平均点85点以上を達成している。	○	・大泉検定では、年間を通してほとんどのクラスで平均85点以上の結果を残すことができた。
	生きる力	ICTの活用	★ICTを活用した「思考力」の育成に取り組むとともに、「個別最適な学び」や「協働的な学び」が実現する授業を行う。	「ICT活用」項目で肯定的回答100%	学校評価アンケート(教員用)	1月	○ 教科を問わずタブレット端末を活用しているが、端末の劣化に伴い、予備機も少ないため、活用できる場面に限定されつつある。	○	・教職員アンケートの「ICTを活用して、授業をしたり、課題を出したりしている。」の項目では、肯定的回答が92.5%だった。各教員が必要に応じてタブレットなどを活用し、個別最適な学び・協働的な学びが実現する授業を行っていると考えられる。
		キャリア教育の充実	★異学年交流や仕前授業など、他者との関わりの中から夢や目標を持ち、ドリームファイルを活用することにより、「自ら学ぶ子」「つくりだす子」「なかよくする子」の育成をめざす。	「キャリア教育」項目で、肯定的回答80%以上	学校評価アンケート(児童用)	7・1月	○ 体育大会や文化発表会、総合的な学習の時間、学期のはじめに目標を設定し、実現に向けて自分を見直す機会を設定している。	○	・児童アンケートの「自分が将来に向かって努力している」の項目では、肯定的回答が1～4年生で90.1%、5～6年生で84.2%であった。前年度と比べて2%前後伸びている。早期からのキャリア教育や異学年交流により、自分の目標に向かって努力しようとする姿勢が身に付いてきている。
豊かな心・健やかな体	豊かな心	互いに認め合える集団づくり	●★「カワセミはがき」を年間を通して活用し、「いいとこ見つけ」に取り組んだり、「レジリエンス」グリーンスクールの推進	「グリーンスクール」項目で肯定的回答85%以上	学校評価アンケート(児童用)	1月	○ 普段からカワセミはがきを書く時間を設定し、互いのよいところを認め合うことができている。6・9年ではレジリエンスの授業を行った。	○	・児童アンケートの「クラスの友達やみんなに、グリーンな行動で接することができる」の項目は、1～4年生は88.9%、5～6年生は92.1%で昨年に引き続き85%以上の肯定率があり、学年が上がるとより意識出来ている様子が伺える。「カワセミはがき」を活用した取り組みを継続している成果と考えられる。しかし、「自分にはよいところがある」の項目では1～4年生は93.4%の肯定率があるが5～6年生になると84.2%に落ちている。引き続き「いいとこ見つけ」に取り組むなど子どもたちの自尊感情を高めていく取り組みをしていく必要がある。
		人権・道徳教育の充実	★同一時間に道徳の時間を設定し、様々な教員が授業をし、授業を参観できるようにする。また、道徳の授業を保護者へ公開するなど、児童の豊かな人権感覚の向上をめざす。	「豊かな心」項目で肯定的回答90%以上		11・1月	○ 道徳の授業を公開する機会があることで、他学年の授業を参観することができた。土壇参観では、全学年が道徳の授業を行った。	◎	・児童アンケートの1～4年生で「道徳の授業は、よく分かる。」の項目では肯定的回答が92.3%、5～6年生で「道徳では、生命の大切さや社会ルール、人としての生き方について、自分で考えている。」の項目では肯定的回答が94.7%あり、人権学習や道徳の授業が生徒の豊かな心を育てることにつながっていると考えられる。また、今年度も道徳の公開授業と、全職員を対象とした研修を実施した。
		いじめの防止の取組	●★月1回、教員がいじめ防止対策基本方針を確認する日を設定し、児童生徒に啓発を行う。 ●「心のアンケート」でいじめに関する項目を設定する。	「心のアンケート」のいじめに関する項目で肯定的回答100%	心のアンケート	各学期	△ ころのアンケートの「いじめはなにかあっても許されないことだと思う」の項目では、1学期の肯定的な回答をしていた児童の割合は全体の93.3%だったが、2学期は全体の98.5%と肯定率が上がった。	○	・ころのアンケートの「いじめはなにかあっても許されないことだと思う」の項目では、1学期の肯定的な回答をしていた児童の割合は全体の93.3%だったが、2学期は全体の98.5%と肯定率が上がった。引き続き100%になるよう、いじめ防止について啓発を行っていく。
	健やかな	健全な生活目標の定着	★はつらつカードや3ピカチェックの活用で、家庭との連携を深め、基本的な生活習慣の定着を図る。	はつらつ・3ピカチェックカード 「生活習慣・健康」項目で肯定的回答80%以上	学校評価アンケート(児童用)	7・1月	○ 週1回の3ピカチェックと学期1回のはつらつカードで生活習慣に関する啓発を行っている。保健だよりでも睡眠や風邪の予防などについて発信することができている。	○	児童アンケートの「はつらつカードががんばっている」の項目は、1～4年生で昨年度より「はい」と答える児童の割合が上がり、90%を超えている。しかし、5～6年生の「はつらつカードを自分の生活改善に役立てている」の項目では、昨年度より肯定的回答率は上がっているが、78.9%にとどまっている。ひきつづき、保健だより等で啓発を行っていく。
小中一貫教育	小中一貫校として、学びと育ちの連続性あるカリキュラムを編成することで、9年間の系統的な指導体制を確立する。	●★学園の合同研修・研究を推進して、小中の教員が互いの専門性を学び合うことで授業力を高め、中学校卒業時を見据えた教育活動に取り組む。	学校評価アンケートの小中一貫の学校運営に関する項目で肯定的回答95%以上。	学校評価アンケート(教員用)(保護者用)	1月	○ 校内の研究授業に加えて、公開授業をする機会を設定していることで、担当外の学年の児童生徒の実態を把握したり、系統性を理解することができるように取り組むことができている。	○	保護者アンケートの結果、「小中の教員が互いの専門性を生かして、学園の児童生徒に教科指導・生活指導・部活動などを行っている。」という項目では、91.9%と課題が残ったが、保護者アンケートと職員アンケートの他の項目は肯定的回答95%の達成することができた。職員間の専門性を生かしていると感じることができると実感できるような取り組みを考えていきたい。	

校長より(年度末) これまで取り組んできた「大泉スタンダード」「思考力ファイブ」の取組や、ICTの活用を意識した学習により、児童の自分の言葉で考えを表現できる力が育ってきている。また、道徳の学習やグリーンスクールの取組を通して、自他の良さを認められるようにも取り組んできた。今後も、小中一貫校の良さを生かし、児童の総合的な学力や生きる力を育てていく。	学校関係者評価者から(年度末) ・1学級の人数が少ないというメリットを生かして、きめ細やかな指導をしておられることがよく分かった。 ・1～6年生の学びの様子を拝見して、順番に成長していることがわかりました。いくつかの授業は子どもの思考力を活性化させる意図がよく感じることができました。 ・先生と子どもが継続的な関係を築くことができるため、環境の変化が少なく安定した気持ちで様々な活動に取り組んでいる。
---	--